総合心療センター　医療相談室

主任　植木 美佐

はじめに

2022 年は例年通り 3 名体制で業務にあたった。医療福祉部によるプロジェクトの一環で、本院連携センターと心療センターのソーシャルワーカー（以下 SW）が 2 年間研修を行い今年その取り組みが終了した。それらを含めこの間 3 人の異動があった。

2022 年を振り返って ～ 現状と課題 ～

2022 年も COVID-19 感染拡大に伴い過去 2 年に続き病床稼働率の低迷が続いた。相談対応件数は月平均約 519 件で 2020 年～2021 年は約 550 件だった為コロナ下の体制となって以降過去最低の件数となった。（図 1）

外来部門では例年と同じく、障害年金申立て等の経済的な相談が一番多く、次いで介護保険、就労を含む障害福祉サービスなどの在宅生活や治療に関する相談が多くを占めた。（図 2）

入院部門でも例年と同じく退院調整が半数を占め、次いで医療費などの経済的な相談が多かった。今年も感染予防対策の影響により家族面会が制限される中ではあったが、オンライン等を活用しながら退院に向けた外部機関への支援引き継ぎが途切れない様対応にあたった。（図 3）また措置入院患者の受け入れが 5 件あり、退院後支援計画を作成する地域保健所との連携が密に行われた年だった。入院患者に実施する精神科退院前訪問は昨年と比較すると実施件数は微増でコロナ前ほどには実施できていない。マンパワー不足により他職種との共同訪問が年々難しくなってきており今後は単独訪問が増える可能性も高い。今後も生活課題のアセスメントを行い、必要とするサービス提案・導入に繋げる為に積極的に訪問を活用していきたい。（図 4）

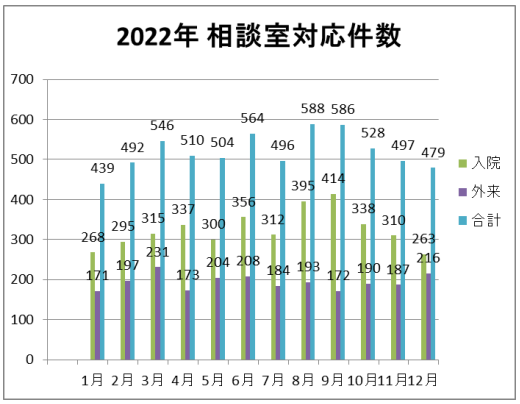

図１　相談室対応件数

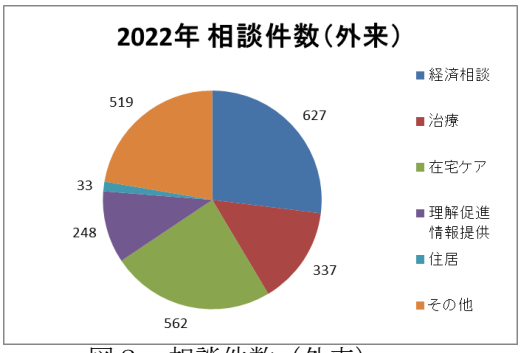

図２　相談件数（外来）

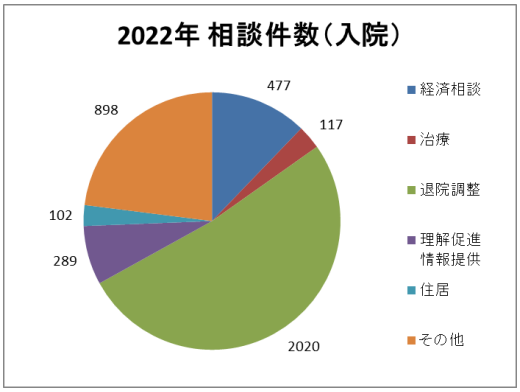

図３　相談件数（入院）

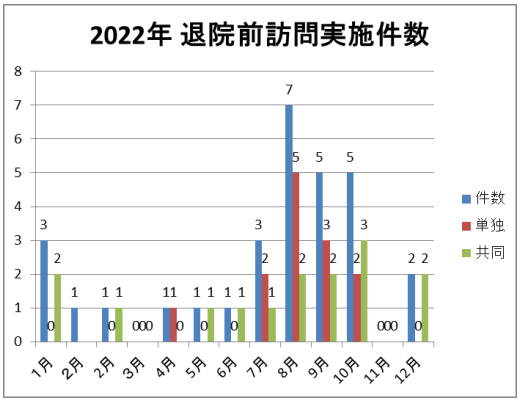

図４　退院前訪問実施件数

2023 年へ向けて

現在精神科急性期治療病棟の SW に求められる役割を再考し、支援を必要としている患者・家族へ適切なソーシャルワークが提供出来る様、SW の介入視点を作成している。2023 年はコロナ対応が緩和される年になると思われる。来年は視点を活用しながら質の高い支援を展開できる様努力していきたい。

実習受入れ状況

実習名	学校名	人数
精神保健福祉援助実習	高知県立大学	2 名

出張　無し